

平成25年度事業報告及び 歳入歳出決算の概要

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成25年度 事業計画における重点事項

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」等の関係法令を遵守した適正かつ確実な事業運営を行い、国民の負託に応えることを使命とする。

1. 医療機関の需要に応じた献血者の確保

- 効率的な献血者の受入れ
- 若年層献血者の確保
- 献血受入体制の充実

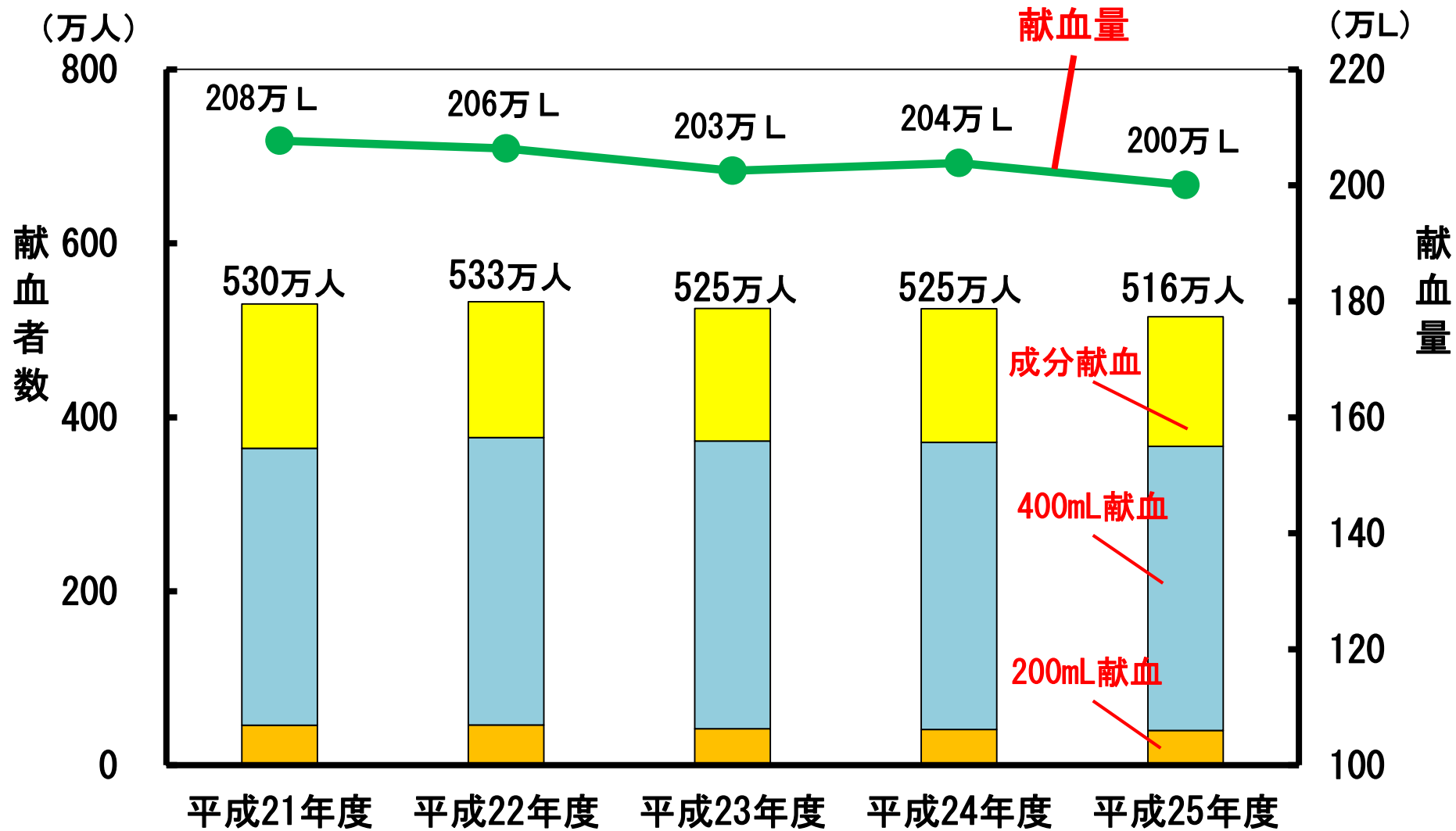
2. 供給体制の強化

- 迅速な供給体制の構築

3. 輸血用血液製剤の安全性の向上

- 核酸増幅検査(NAT)の精度向上

1. 献血者数及び献血量の実績



献血者数
対前年度比

103.2%

100.5%

98.5%

100.0%

98.2%

3. 献血者の確保対策

(1) 若年層を対象とした対策

- ・SNS、ラジオ番組、若者向け雑誌等を用いた広報の実施
- ・小中学生向け「献血セミナー」・「体験学習」等の実施
- ・学生ボランティア組織との連携



血液センターにおける体験学習



全国学生献血推進団体代表者会議

(2) 年齢層に応じた対策

- ・献血ルーム内キッズスペースの設置
- ・献血協賛企業への登録促進



キッズスペース
弘前献血ルーム CoCoSA(青森)



キッズスペース
あべの献血ルーム KiZooNA(大阪)

(3) 複数回協力者の確保

- ・複数回献血クラブへの加入促進

(4) 献血推進キャンペーン等の実施

- ・Love in Action プロジェクト（通年）
- ・複数回献血者確保キャンペーン（4～5月）
- ・愛の血液助け合い運動（7月）
- ・第49回献血運動推進全国大会〔福岡県〕（7月）
- ・いのちと献血俳句コンテスト（7～12月）
- ・全国学生クリスマスキャンペーン（12月）
- ・はたちの献血キャンペーン（1～2月）



第49回献血運動推進全国大会
（福岡県）

(5) 献血環境の整備



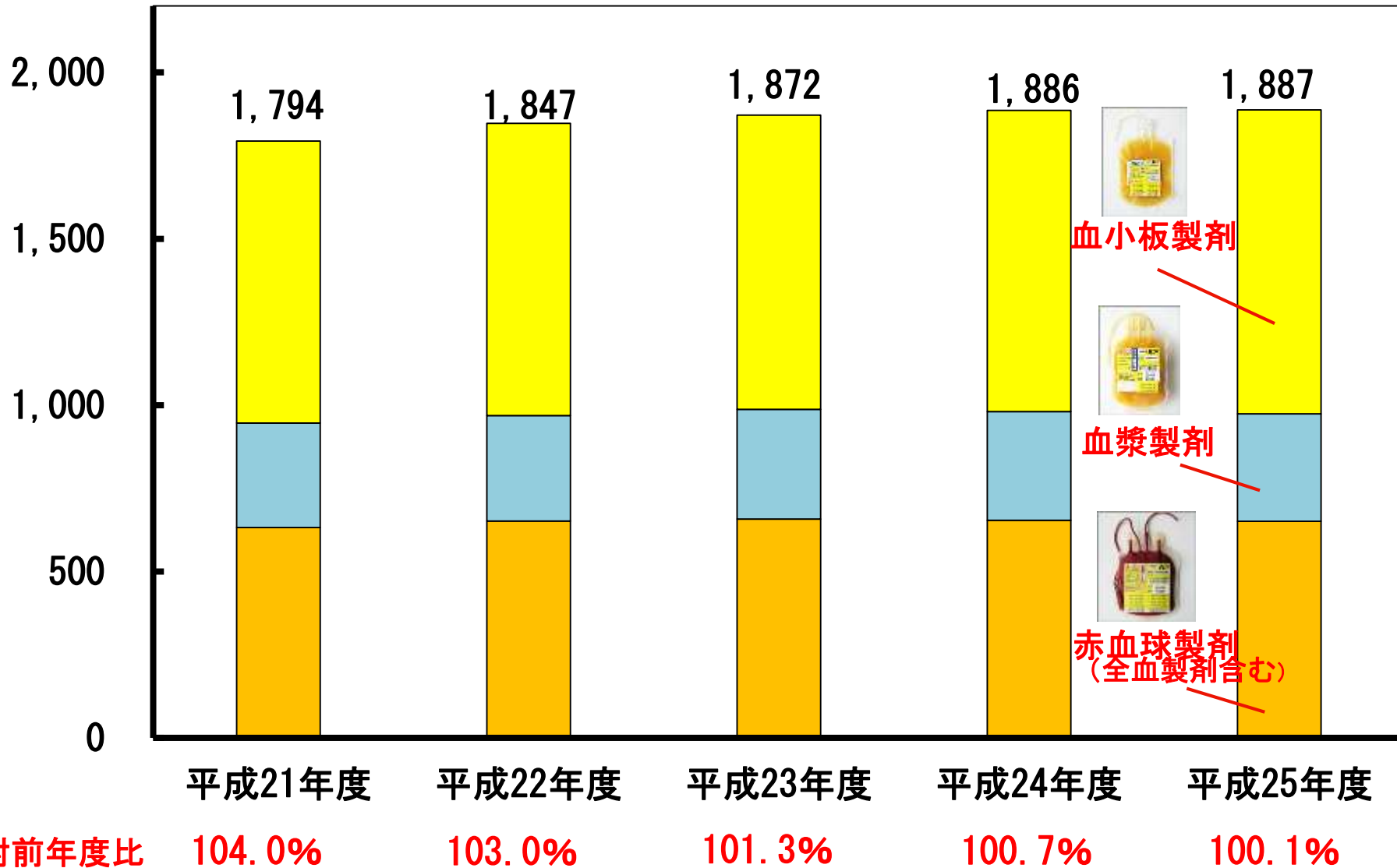
献血ルーム西海（長崎）



問診用タッチパネル

4. 輸血用血液製剤の供給実績

(万本) ※ 200mL単位換算



5. 供給体制の整備

(1) 新たな施設での供給業務開始

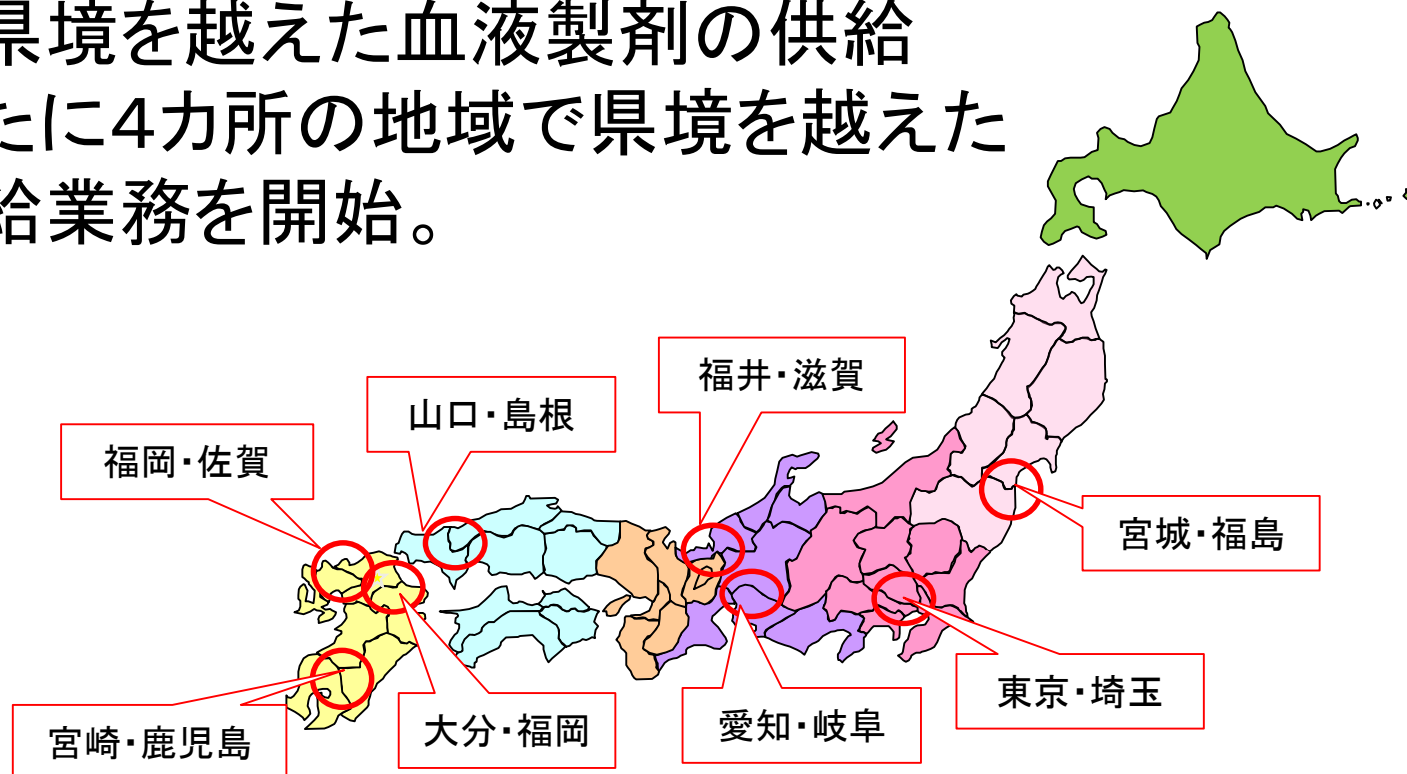
新たに設置した5カ所の供給出張所で供給業務を開始。



鴨川供給出張所(千葉)

(2) 県境を越えた血液製剤の供給

新たに4カ所の地域で県境を越えた供給業務を開始。



県境を越えた供給の実施地域 (平成26年4月1日現在)

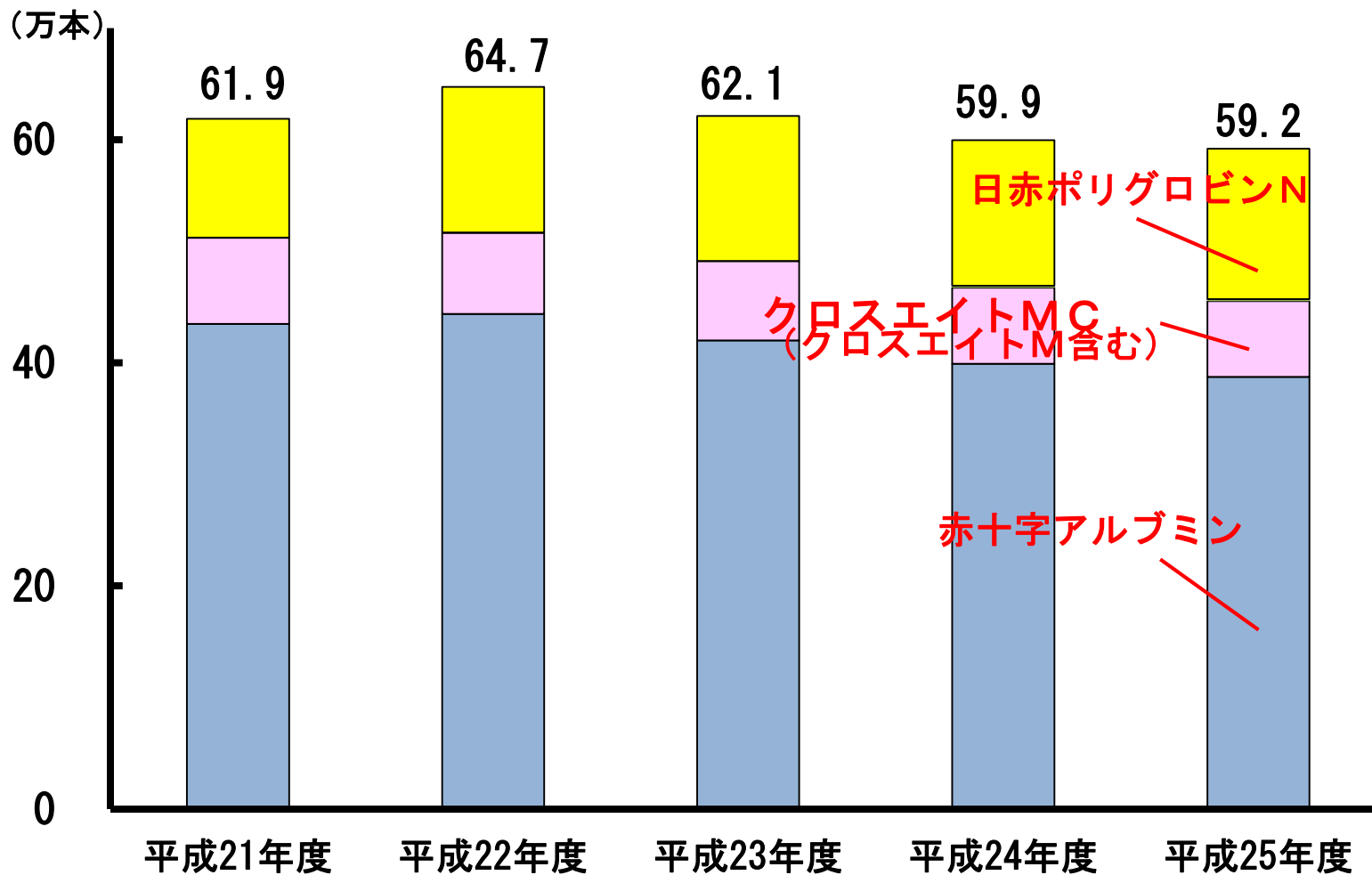
(3) 危機管理・災害対応

平成26年2月の大雪により交通網が途絶した際には、ヘリコプターを用いた血液搬送を実施。



ヘリコプターによる血液搬送（平成26年2月17日）

6. 血漿分画製剤の販売実績



日赤ポリグロビンN



クロスエイトMC



赤十字アルブミン

※日赤ポリグロビンN注5%は、2.5g/50mL換算

クロスエイトMC/Mは、1,000単位換算

赤十字アルブミンは、25%50mL換算

※抗HBs人免疫グロブリンは販売量が少量のためグラフ上に表示されません。

血漿分画製剤の国内自給率

アルブミン製剤 **57.6%**

グロブリン製剤 **95.8%**

7. 安全対策

核酸増幅検査(NAT)は、これまで20検体をまとめて検査していたが、これを1検体ずつ検査することとし、平成26年8月までに新たな検査システムを全国8カ所に導入するための準備を実施。

8. 国際協力の実施

アジア地域の赤十字・赤新月社から6名の研修生を受入れ、ブロック血液センター等において、献血者受入、採血、検査、血液製造等の各分野の研修を実施。



海外研修生の研修の様子

9. 造血幹細胞事業

(1) 造血幹細胞提供支援機関

国内唯一の「造血幹細胞提供支援機関」として指定を受け、骨髄データセンター業務、移植用臍帯血の品質向上に向けた協力、事業普及活動等を実施。

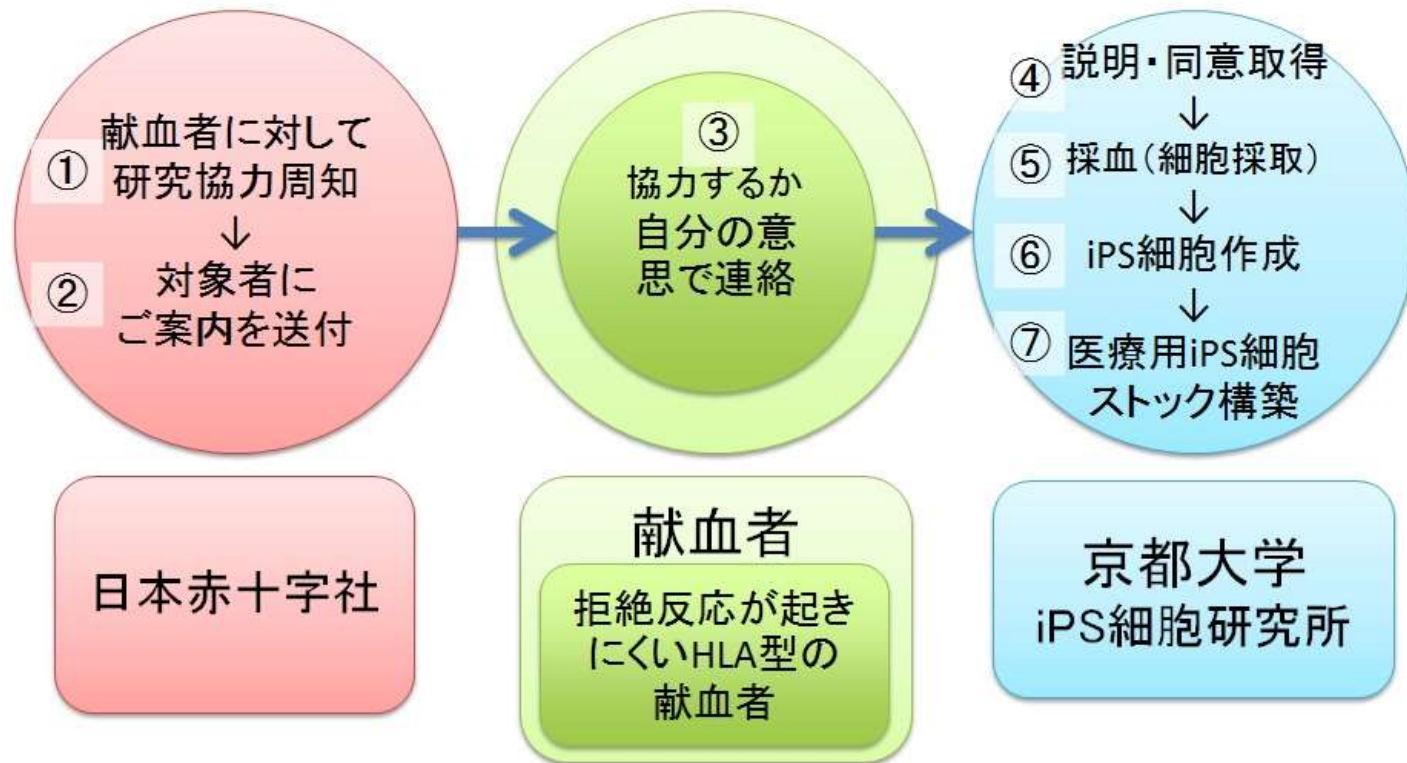
(2) さい帯血バンク事業

北海道、関東甲信越、近畿、九州の各ブロック血液センターに設置されている「日本赤十字社さい帯血バンク」について、臍帯血供給事業の許可申請を国に提出し、平成26年4月1日から許可を受けた事業者として事業を運営。

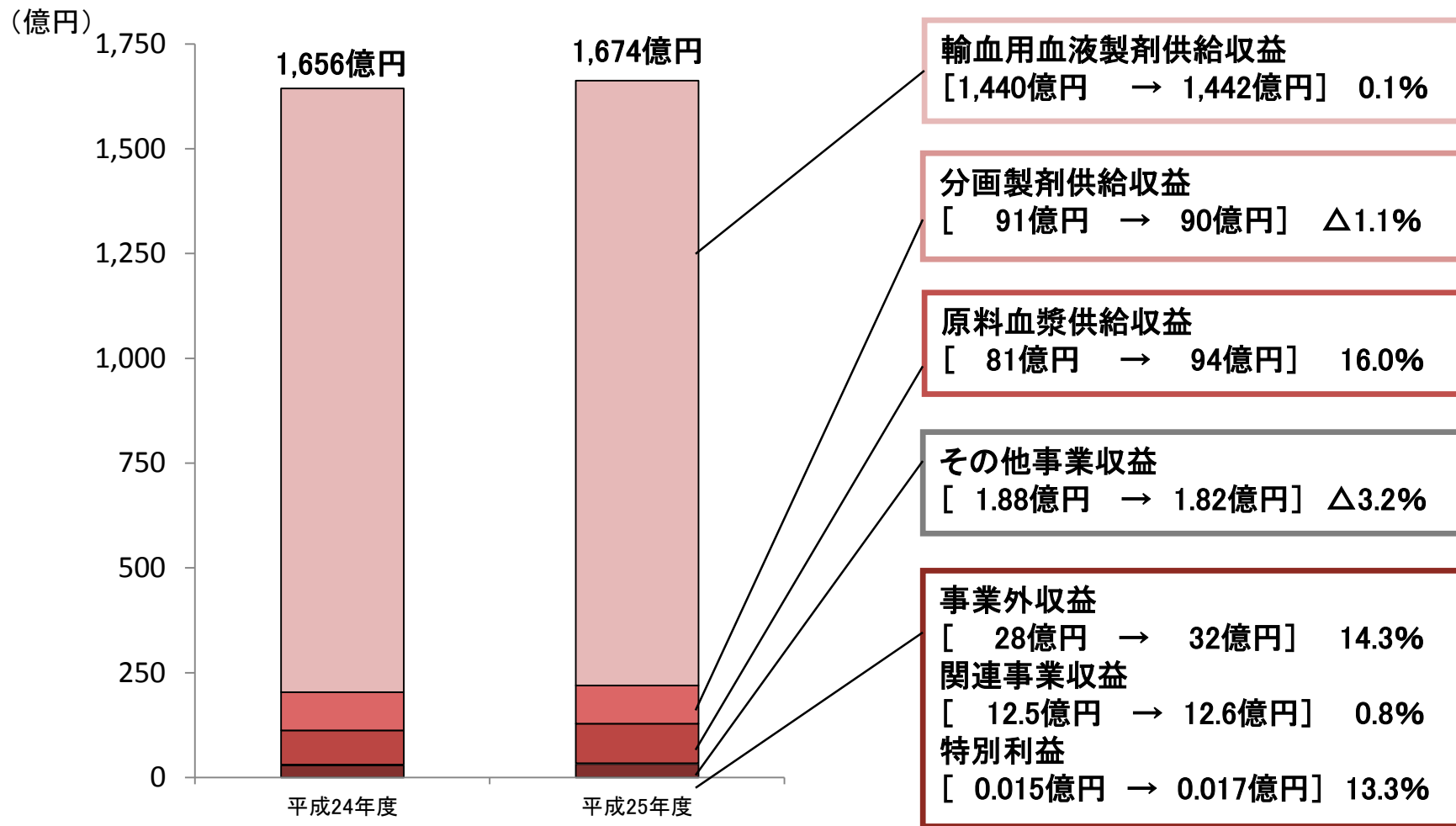
10. 医療用iPS細胞ストック構築への協力

京都大学iPS研究所の依頼に基づき、医療用iPS細胞ストック構築に向けて、拒絶反応が起きにくいHLA型の組み合わせを持つ献血者に協力呼びかけを実施。

協カイメージ

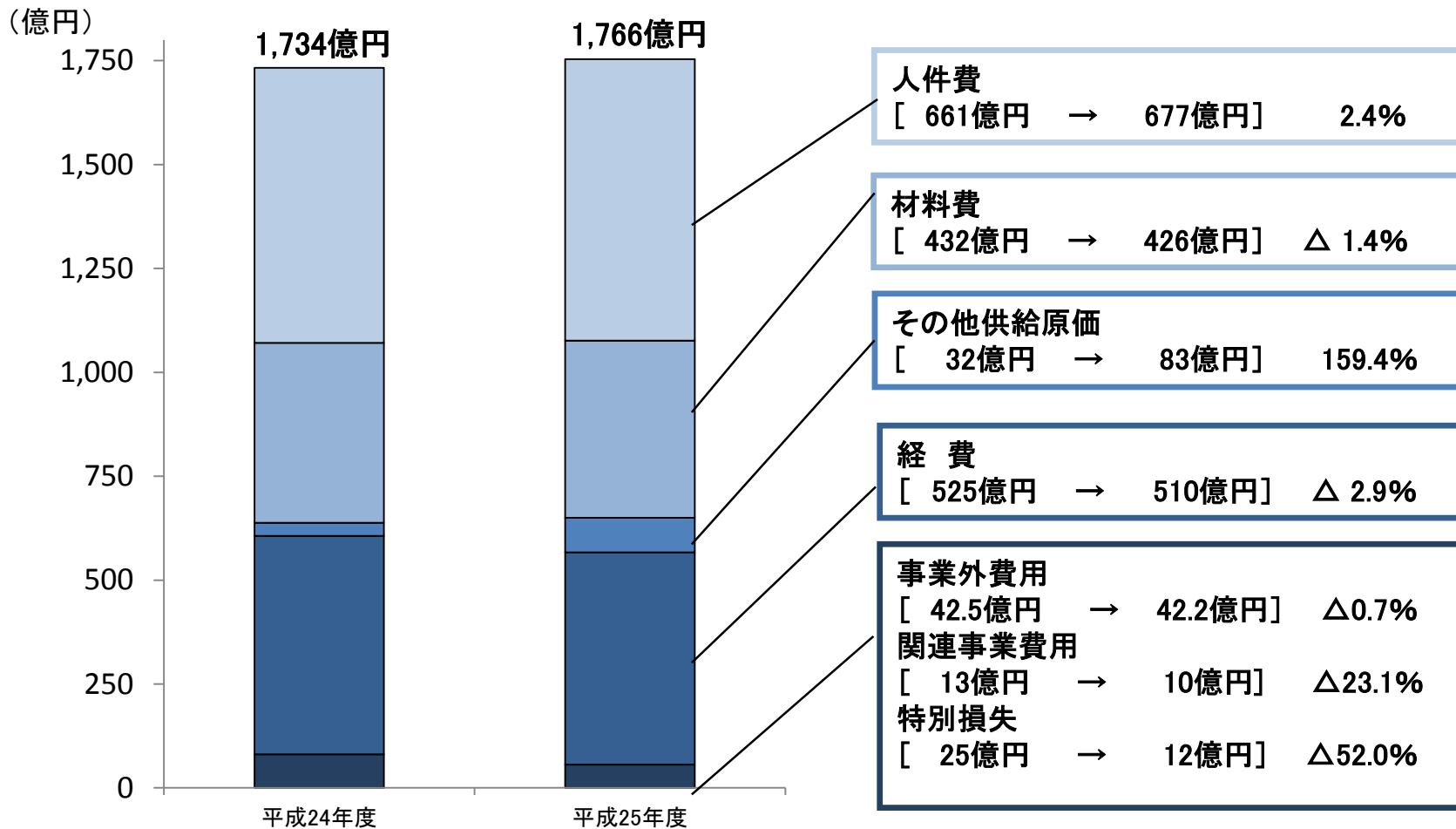


11. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



	平成24年度	平成25年度	増減率
収益的収入合計	1,656億円	1,674億円	1.1%

12. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



	平成24年度		平成25年度	増減率
収益的支出合計	1,734億円	→	1,766億円	1.8%
収支差引額	△77億円	→	△91億円	

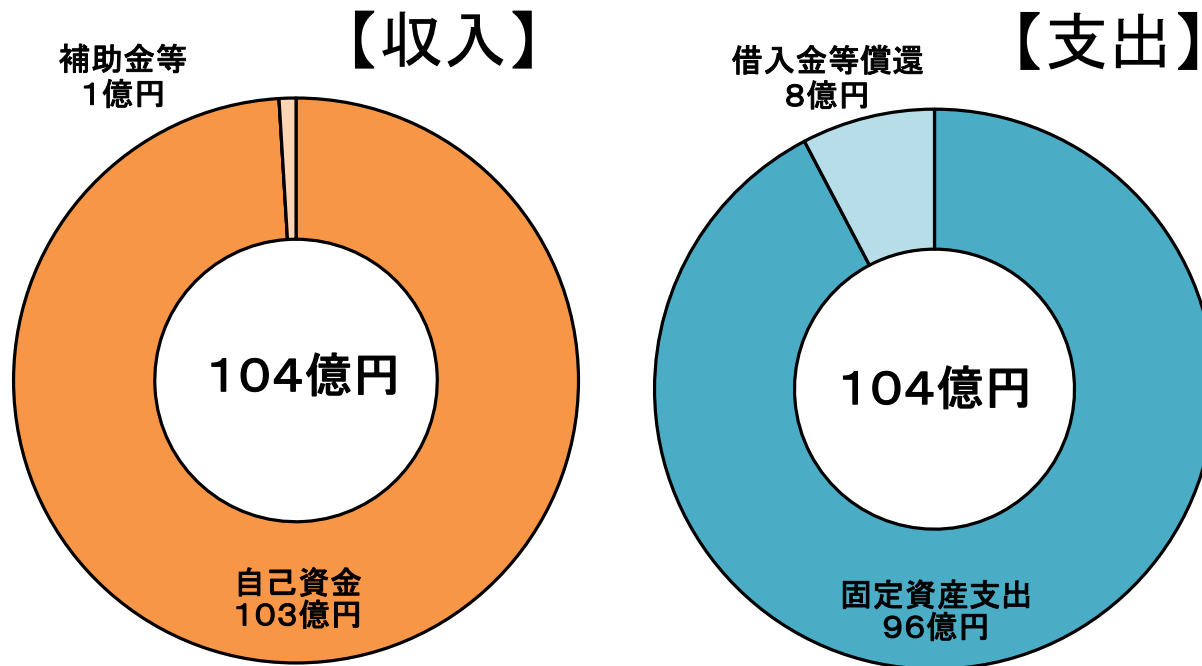
13. 平成25年度決算 対前年度費用増減内訳(1)

人件費 15.8億円増	事務職員費 (定期昇給分2.9億円増、職員増員分5.4億円増、分画センター分3.4億円減)	4.9億円増
	看護職員費 (定期昇給分1.8億円増、職員増員分0.9億円増)	2.7億円増
	技能労務職員費他 (定期昇給分1.7億円増、職員増員分0.6億円増、分画センター分2.0億円減)	0.3億円増
	非常勤職員費	1.2億円増
	退職給付費用	4.6億円増
	賞与引当金繰入額	0.5億円増
	法定福利費 (定期昇給分1.3億円増、職員増員分1.4億円増、分画センター分1.1億円減)	1.6億円増
	血液用器具費、薬品費など 分画製剤用器具費など	3.2億円減 3.3億円減

13. 平成25年度決算 対前年度費用増減内訳(2)

<p>経費 14.3億円減</p>	<table> <tr> <td>血液事業情報システムにかかる委託費など</td> <td>11.0億円増</td> </tr> <tr> <td>献血キャンペーンなどの業務普及費</td> <td>4.3億円減</td> </tr> <tr> <td>ブロックセンターに伴う準備消耗品費</td> <td>6.7億円減</td> </tr> <tr> <td>機械備品など経過年数に伴う減価償却費</td> <td>13.3億円減</td> </tr> <tr> <td>損害填補保険料率の改定による保険料など</td> <td>1.0億円減</td> </tr> </table>	血液事業情報システムにかかる委託費など	11.0億円増	献血キャンペーンなどの業務普及費	4.3億円減	ブロックセンターに伴う準備消耗品費	6.7億円減	機械備品など経過年数に伴う減価償却費	13.3億円減	損害填補保険料率の改定による保険料など	1.0億円減
血液事業情報システムにかかる委託費など	11.0億円増										
献血キャンペーンなどの業務普及費	4.3億円減										
ブロックセンターに伴う準備消耗品費	6.7億円減										
機械備品など経過年数に伴う減価償却費	13.3億円減										
損害填補保険料率の改定による保険料など	1.0億円減										
<p>その他供給原価 50.9億円増</p>	<table> <tr> <td>分画製剤購入費用(払出し分)</td> <td>50.9億円増</td> </tr> </table>	分画製剤購入費用(払出し分)	50.9億円増								
分画製剤購入費用(払出し分)	50.9億円増										
<p>その他 14.0億円減</p>	<table> <tr> <td>関連事業化に伴う臍帯血受入額など</td> <td>4.1億円減</td> </tr> <tr> <td>固定資産除却損</td> <td>5.3億円増</td> </tr> <tr> <td>血漿分画事業譲渡に伴う資産評価損</td> <td>15.2億円減</td> </tr> </table>	関連事業化に伴う臍帯血受入額など	4.1億円減	固定資産除却損	5.3億円増	血漿分画事業譲渡に伴う資産評価損	15.2億円減				
関連事業化に伴う臍帯血受入額など	4.1億円減										
固定資産除却損	5.3億円増										
血漿分画事業譲渡に伴う資産評価損	15.2億円減										

14. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし



長野県赤十字血液センター

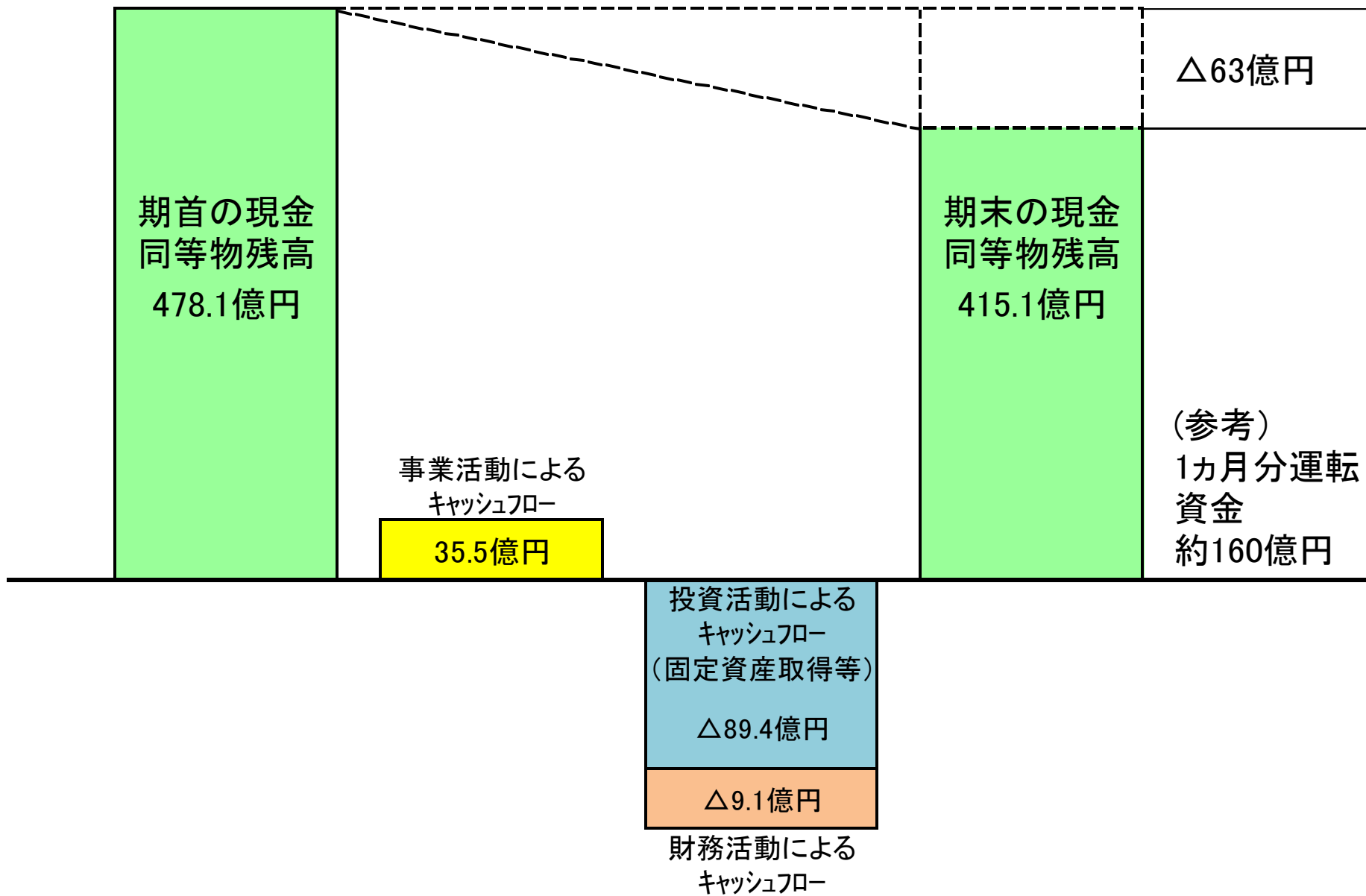
資本的支出

内容	金額
血液センター、献血ルーム、供給出張所の施設整備等	45億円
成分採血装置、血液保管庫などの整備	20億円
移動採血車、献血運搬車などの車両整備等	11億円
血液事業情報システム等	20億円
借入金等の償還	8億円



埼玉県赤十字血液センター
 鴻巣献血ルーム

15. 平成25年度決算 キャッシュ・フローの概要



16. 収益的収支・資本的支出・減価償却費の推移見込み

(単位: 億円)

